

金沢市指定史跡

金沢城 惣構跡

そ う が ま え



写真：東内惣構跡枯木橋跡遺構 土居側石垣
背景：加賀国金沢之絵図（寛文8年：金沢市立玉川図書館蔵）

金沢城の惣構

「惣構」とは、城下町を囲い込んだ堀や土居などのことで、安土桃山時代～江戸時代初めに、日本各地で築られました。

二重の惣構

金沢城には、内・外二重の惣構がつくられました。内惣構は二代藩主前田利長の命により慶長4年(1599)に造られたといわれています。さらに慶長15年(1610)には、三代藩主利常が家臣の篠原出羽守一孝に命じて外惣構を造らせたと伝わっています。堀の城側には土を盛り上げて土居を築き、竹、松、ケヤキなどを植えていました。

惣構の管理

惣構肝煎のほか、惣構内への出入口(虎口)には、惣構橋番人を配置して、堀にゴミを捨てること、土居を崩すこと、竹木を伐採することなどを禁じていました。北国街道出入口の枯木橋と香林坊橋、港へ通じる升形はとくに軍事・交通の要衝とされていました。

今に息づく惣構の流れ

時代の流れとともに、多くの土居はくずされ、堀は埋め狭められてしまいました。しかし、その水の流れは市内の各所で今も途絶えることなく、市民に親しまれています。金沢城惣構跡は、平成20年12月26日に金沢市指定史跡になりました。



加賀藩年中行事図絵「香林坊の木戸」
巖如春(1868～1940年):金沢大学附属図書館蔵



東内惣構跡枯木橋詰遺構

枯木橋と、江戸時代の石垣をあわせて見学できるように、平成20年度に整備しました。

城下町の海の玄関口にあたり、守りを固めるために堀と土居を突出させ内部に方形の空間を造った升形門が造られていました。土居と堀が整備されています。



升形遺構【西外惣構跡】

惣構跡の段差地形と堀のせせらぎを活かした緑地に、惣構の説明板が設置してあります。周辺には、惣構の内外に沿う道が残っています。



香林坊2丁目街園【西外惣構跡】

香林坊は、北国街道の城下西口で、木戸(門)があり、橋が架かっていました。合流した鞍月用水の豊かな流れを見ながら探訪できます。



香林坊～長町 せせらぎ通り【西外惣構跡】

市役所南側では、ケヤキの巨木が根元の盛土とともに残り、かつての土居の高さを知ることができます。橋名は、近くに居た武家の名に由来します。



宮内橋詰遺構【西外惣構跡】

西外惣構跡の起点となる本多の森に近く、宮内橋詰遺構とあわせて、最も長い区間で堀の雰囲気味わうことができます。



金沢21世紀美術館南側【西外惣構跡】



尾山神社前【西内惣構跡】

昭和初期の古写真をもとに石橋と石積み水路を復元しました。隣接する尾山町門前町緑地側では神社側が土居、道路から緑地側が堀でした。



尾山神社南側【西内惣構跡】

西内惣構の起点です。尾山神社境内には、土居を利用した築山があり、ケヤキなどの巨木が繁っています。堀は埋められて道路になっています。



主計町緑水苑内遺構【西内惣構跡】

西内惣構跡の堀水が浅野川に流れ落ちる地点にあたります。堀と土居が整備されており、主計町の町並(重要伝統的建造物群保存地区)とあわせて散策できます。



枯木橋南遺構【東内惣構跡】

枯木橋は北国街道が惣構跡を渡る城下東口で、明治25年(1892年)に築造された石橋の高欄が復元されています。橋の付近では発掘でみつかった遺構が整備されています。



小将町中学校東側【東内惣構跡】

東内惣構跡の起点となる小将町中学校の東側に水路が残っています。写真にみえる道路幅までが、かつての堀幅と推定されています。



東兼六町【東外惣構跡】

小立野台地を下った東外惣構跡は、ここで源太郎川と合流します。城側との高低差や石垣が残り、古い町並みとあわせて散策できます。



兼六園 山崎山【東外惣構跡】

東外惣構跡の起点となる地点です。園内の山崎山は土居を利用して造ったと推定され、ケヤキの巨木が生えています。近くの池は堀の痕跡です。

東内惣構跡枯木橋詰遺構

平成 18 年度発掘調査
平成 20 年度史跡整備

枯木橋と惣構の石垣

枯木橋は、北国街道の東の玄関口ともいえる城下の要衝です。

調査地の土居は、築造当初自然のかけを利用した斜面でした。18 世紀以降、堀外側次いで土居側に石垣を築いています。堀外側では、古い石垣を埋めて前面に新しい石垣を築き、さらに堀幅を狭めました。古文書により、惣構の大部分は素掘りで土手だったと考えられています。堀両側に石垣が築かれたことは、この地点の特徴といえます。



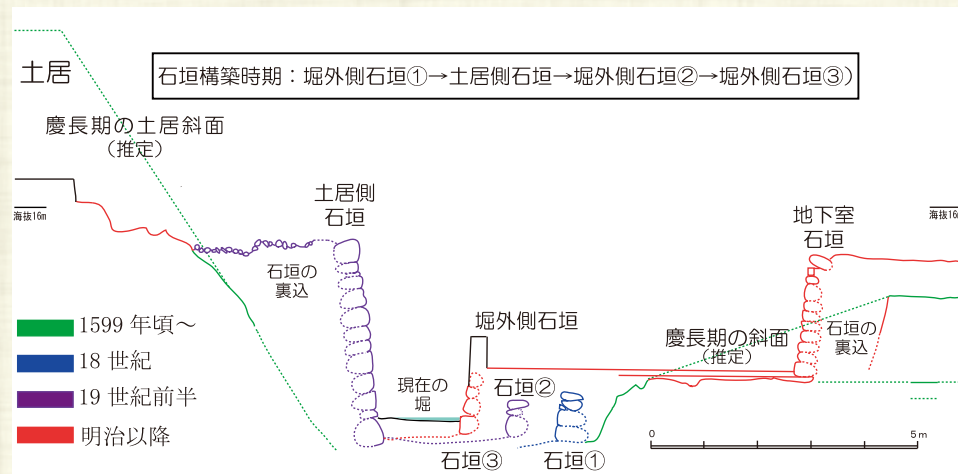
堀外側石垣の変遷



延宝期金沢城下図における調査地点
(1674 年頃：石川県立図書館蔵)



土居側石垣の構造



堀の岸と石垣の変遷

東内惣構跡枯木橋南遺構

平成 24 年度発掘調査
平成 25 年度史跡整備

虎口から離れた石垣の発見

枯木橋上流部でも、石垣を築きながら段階的に堀を埋めた様子が明らかになりました。惣構跡の他の地点の調査では、城下の出入口（虎口）から離れると岸が素掘りになることが判明していますが、この地点では石垣が築かれていました。虎口から離れていても、堀の水流の強さや、埋立地の有効利用のために、石垣としていたようです。



堀外側石垣

西内惣構跡主計町緑水苑内遺構

平成 20 年度発掘調査
平成 21 年度史跡整備

惣構の土居と堀幅

埋まっていた堀の部分を調べたところ、地面を素掘りした土居斜面が現れました。17 世紀中頃～19 世紀前半には土斜面の堀（約 10 m）があり、19 世紀中頃（明治時代初め）に土居を崩して堀を埋め、幅約 2 m に狭めたことがわかりました。



土居斜面と堀跡

西外惣構跡升形遺構

旧宮腰往還と升形

升形は、港町の宮腰（現金石）から来た往還道が城下に入り、いわば城下町の海の玄関口に当たります。ここには、惣構の堀と土居を突出させて内部に方形の空間を造った升形門がありました。

升形の変遷

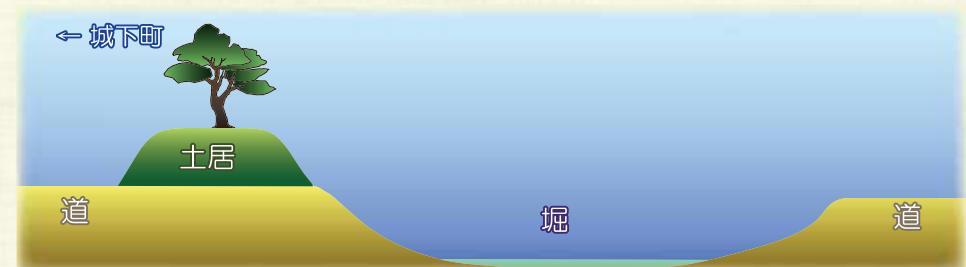
築造当初の素掘りの堀が見つかりました。堀跡は周囲の市道下まで広がっています。17 世紀末以降、升形角部を中心とした土居側に石垣を積み、段階的に堀を埋めて宅地化しています。また、升形下流部や堀の外岸では石垣を築かず、杭を打ち、土留めをしながら堀を埋め狭めています。堀幅は、西側で約 14 m（17 世紀初め）から約 6 m（17 世紀末）に変化しています。



延宝期金沢城下図における調査地点
(1674 年頃：石川県立図書館蔵)



升形角部の石垣（江戸時代末期）



惣構のイメージ図

お問い合わせ

金沢市文化スポーツ局

歴史都市推進課

用水・惣構堀保全室

文化財保護課

埋蔵文化財センター

TEL 076-220-2310

FAX 076-224-5046

TEL 076-220-2469

TEL 076-269-2451

パンフレットは
こちらから
ダウンロード



平成30年6月改訂
令和3年3月印刷